グループホーム歩歩清風

（別紙の2）

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「共に歩む」「介護は心」を共有し、自分たちの独自理念を作っている。迷ったときは基本に立ち返り実践につなげるよう努力している。	法人の理念「共に歩む」を基本に、ホーム独自の目標として「利用者様の笑顔を力とし、今日というこの日を大切に一歩一歩共に歩みます」と定め、玄関に職員の写真と共に掲示しホームに来られた方にもわかり易くしている。法人の研修テーマから毎月の強化目標を決め、朝礼時唱和し実践している。理念にそぐわない言動があった時には管理者が職員に注意喚起をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出支援で近隣の店へ買い物、外食等に行っている。又、栗拾いのご招待や野菜を頂く等交流している。小学生マラソン大会の沿道応援は恒例行事となり、学校新聞で記事にしていただいた。	自治会に加入しお祭りや文化祭のお誘いをいただき、職員と作品制作に取り組み文化祭に出品している。区長から栗拾いの誘いを頂いたり、近所の農家の方からは野菜を頂き、また、犬の散歩の方とも挨拶しふれあっている。小学生のマラソン大会がホームの脇を通るのでホーム利用者皆で応援している。ボランティアグループの来訪も多く、花笠踊りでは利用者分の花笠がホームに置かれ、一緒に利用者も参加し楽しい時間を過ごしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣接施設ご家族向け「認知症サポーター養成講座」開催。一般向け講演会等は随時ご案内し、相談がある時は対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回定期開催。会議場所をホールに変更し委員の皆様には、より現状を知っていただくようにした。頂戴した意見・アドバイスは真摯に受け止め、より良いサービスに向けて業務改善等に反映している。	定期的に開催されており、家族代表、区長、区福祉委員会長、民生委員、町保健福祉課職員、法人副理事長が参加し、昨年度から利用者のいるホールで行い、できる限り職員も出席している。利用者の様子がわかり、意見交換も活発に行われ、年2回行われる家族会のうちの1回は外で開催することができたという。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時、意見交換をしており、困っている案件等相談している。日々変化する介護保険等の最新情報はメール配信にて常に共有している。地域ケア会議等の開催は無いので、更なる情報収集等が課題といえる。	介護認定の更新調査はホームで家族立会いの下行われ、職員からも様子を話し情報交換をしている。町保健課よりの情報はメールで送られスムーズな対応ができており、相談等で窓口に出向くこともある。更なる情報収集ができるよう町にも働きかけを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員で「身体拘束ゼロ」DVDを観るなどの勉強会を年2回以上行い、意識を高め取り組んでいる。現行、防犯上玄関は施錠しているが、要望があれば開けるように努めている。中庭は常に解放しており自由に出入りは可能となっている。	玄関は防犯上施錠されている。入居間もない方もおり所在確認には注意を払い、外出傾向の強い方には職員が寄り添い散歩に出掛けたりしている。転倒防止のセンサーを家族の了解を得て使用しているが、きめ細かな対応に心がけている。管理者は「身体拘束チェックシート」で年2回点検し、勉強会を重ね職員全員で身体拘束ゼロに向け取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	全職員、定期的な勉強会を行い身体的虐待は勿論のこと心理的虐待にも注意しているが、言葉使いの観点から注意すべき職員はゼロではない。職員間、又は管理者が介入し改善に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内研修会で学ぶ機会はあるが全職員の参加は難しく、又職場への落とし込みには至っていない。ご家族間のトラブルで悩まれている相談者には専門の方を紹介するなどの支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明は時間をかけてしっかり行い、疑問点や不安なことが無いかお聞きしている。介護報酬・料金等改定があった場合は文書と口頭にて説明し、ご理解をいただくと共に同意書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のお便りにて近況報告とご意見を頂戴したい旨等発信している。ご利用者には日々の生活の中、ご家族には面会時等お声かけをしたり、意見箱を設置するなど機会を設けている。頂戴したご意見等は全職員に周知し改善へと反映している。	若干名の利用者以外は意見や思いを表出することができる。家族には毎月のお便りや来訪時に意見を伺うよう努めている。今年は、年2回行う家族会のうちの1回を外へ出て行うことができ、全利用者と14家族20名が参加し、総勢49名で利用者、家族共に大変喜ばれたという。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や日常において報告・相談がしやすい環境作りに努めている。変更時は全職員の意見を聞いて実施している。管理者との面接にて出された意見や思いは内容に適した対応をしている。	職員会議が月1回、朝1時間行われ各係から意見や提案が出されている。法人の研修に職員が交代で出席し、伝達学習でスキルアップも図っている。法人として目標管理制度が導入されており、半年ごとに管理者による面接があり、職員の意見、提案を聞き運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「働き方改革」にいち早く取り組み「全職員アンケート」「ノー残業」「有給休暇取得」に向けた取り組みを行っている。職員の現状、意見等を常に上長へ報告しているが、すぐに解決できない問題が多々ある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修は月1回全職員対象で計画されている。法人内外研修も多く、職員一人ひとりが学べる機会は充実している。又、受けた研修を現場に落とし込むサポートを強化しており、施設全体がスキルアップすることを目的としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業者とは会議、勉強会等で会うが相互意見交換交流には至っていない。法人外への会議、研修会等への参加にも理解がある。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の気持ちを一番に考え声に耳を傾けている。希望しない事は勧めない、又声にならない思いも察知し、ご本人が安心する関係・環境作りを常に行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の主たる訴えは何かに耳を傾け、不安なことやご意見、意向をお聞きする中で良い関係を作るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテーク面接の際、現サービスと今後必要とされるサービスがあることを伝えている。自施設では提供できないサービスが必要に及んだ場合も他のサービス利用等の支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者個々のペースで生活していただく中で、できる事は一緒にしている。日々、挨拶を交わし時に話し合い、笑い合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の近況を詳細に伝え意向をお聞きしながら、常にご協力を仰いでいる。但し、ご家族の思いやできる事の力量には個人差があり、職員では計り知れない部分には苦慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と馴染みの理美容院や敬老会等の地域行事に参加したり、手紙を出しに行く等の支援をしている。家族・親戚・友人等の面会を大切にして、地域・社会と触れ合える外出支援にも努めている。	家族以外にも近所の方が来られ居室でお茶を飲み話をされている。家族と馴染みの理美容院に行きパーマをかける方もいる。宛名書きもされ手紙を出す利用者もおりできることが継続できている。ご主人の命日、お盆、お彼岸のお墓参りに、また、正月やお盆に自宅に帰る方もいる。利用者同士一緒に入浴されたり、居室を行き来し話もされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の相性・性格等を把握し、交流できるように介入している。又、レクリエーション・行事等を通じて良い関係性を築けるよう支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了したご家族がその後も近くに来たからと寄ってくださったり、近況報告と相談をされる方もおり支援に努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	機会あるごと、又は日々の会話の中からご本人の思いや希望を聞いている。聞き取りが困難な場合は様子を詳細に渡り情報収集・共有し、ご本人本位となるよう対応している。	ほとんどの方が思いや希望を表出できる。食事時間は食べることに専念し10時、3時のお茶の時間は職員も一緒にお茶を飲み利用者と話をするようにしている。日々の様子や表情、声のトーンでその日の心身の動きを判断している。事務所に来たり、居室で話すこともあり、情報は日報、個人ファイルに記入し職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前情報の情報不足はご本人との会話やご家族からも折に触れ伺いながらサービスに反映している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化は職員間で情報共有し記録に残している。ご利用者個々の能力を単一的に捉えず総合的に着目し、ご本人にとって一番良い方法を常に考えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員の気づきと職員間の情報交換は常に行っている。ご本人・家族・職員、時に主治医・連携看護師を交えて話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	職員はそれぞれ1～2名の利用者を担当している。介護計画は職員会、カンファレンスで話し合い、医師や主任看護師の意見も頂き、家族の意見をお聞きしケアプランを管理者が作成している。モニタリングは3ヶ月毎に行い、半年ごとに介護計画の見直しも行っている。状態に変化が見られた場合は速やかに見直しを掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体的特変時は記録用紙を別に設けて情報共有し、より注意をしている。又、常にどんなことで「笑顔」が見られたのかを大切にし、ケアの実践及び見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が付き添えない時には受診の付き添いをしている。又、入院されたご利用者が連携看護師の協力を得られれば帰設できる場合においては支援をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月ボランティアの方々の訪問があり太極拳や紙芝居、日本舞踊などを楽しんでいただいている。又、馴染みの理美容院を継続利用していたり、お花の好きな方に毎月花を買う外出支援などご本人の意向に沿った支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望をお聞きした上で、ご家族対応受診の方、往診の方すべての主治医と連携を密に取っている。主治医変更希望があった場合には、双方の連絡役となり誠意をもって支援している。	基本的には利用前からの主治医を継続しているが、ホームからも近く、月1回の往診対応の病院医師に変更される方が多く、三分の二強の利用者が家族の希望もあり往診で対応している。週1回、隣接する同じ法人の特別養護老人ホームから看護師の訪問があり、継続して健康管理について相談できている。歯科についても数名のかたが往診を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の些細な変化や気づきを連携看護師に報告相談している。異常発生時は主治医の指示を受け、適切な受診及び治療となるよう早期に医療へ繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は即日詳細な情報提供書を渡している。常にご利用者の状態を把握し早期退院に向け、病院関係者と密に情報交換をしている。又、日々良い関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、最初の説明を行っている。その後、重度化・終末期を見極めるタイミングで、ご家族・主治医・看護師・介護職員等で話し合う機会を設けている。その時の自施設の現状を説明し、ご本人・ご家族にとって最良な方法を支援している。	重要事項説明書にホームとしての方針が明記され、利用契約時、状態が変化した時など段階的に説明し理解を得ている。看取りの経験もあり、今年4月にも看取りを行っている。本人・家族の希望で退院後1ヶ月家族が寄り添い、職員も毎日利用者や家族に声をかけホームで最期を迎えることができたという。エンゼルケアを職員3人で行い、利用者全員でお見送りをし、家族からも喜ばれその後も家族との交流があるという。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会と心肺蘇生法（CPR）、自動体外式除細動器（AED)の実践訓練をしている。又「緊急体制フロー図」を貼り、誰もが迅速な対応をできるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回施設内訓練を行い防災意識を高めている。今回、辰野町消防署の協力を得て「地震体験車」と「煙体験車」を実際に体験をすることができた。有事の際は同法人隣接大型施設や地域住民の方々と相互協力をしていく話を進めている。	年間活動計画に基づき、年2回の総合防災訓練と地震想定対応訓練を1回実施し夜間想定も行っている。利用者は赤いタオル被り避難するようになっているが、耳が遠く聞こえない方への対応をの必要性を感じている。水消火器を使用するの消火訓練は毎回職員を変え行っている。今年は消防署の協力を得て「地震体験車」と「煙体験車」を職員が体験し、地域住民、隣接する同し法人の施設との協力体制を強く感じている。備蓄は3日分倉庫に保管されている。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本は名字でお呼びし、常に丁寧な言葉使いを大切にしているが完全とはいえない。職員間で注意しあい意識するようにしている。又、慎重な内容の話をする時は必ず居室で行うよう配慮している。	お呼びする時は苗字に「さん」をつけているが、本人の好む呼び方でお呼びしている。トイレの声かけはさりげなく、小声で行っている。職員き言葉遣いには特に注意を払い、接遇研修も重ね、自尊心を傷つけないよう、互いに注意し合いながら支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の意向を伺い、自己決定していただけるような声かけを意識している。言葉では十分に表現できない方の場合は、日頃よりの表情の変化や体の動きから注意深く読み取るように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活の施設において、一日の流れや生活リズムは大まかに決まっているが、その中でも個々のペースで意向に沿った支援をしている。決して無理強いをしないように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者自ら身だしなみに意識していただけるようなお声かけを常に心がけている。時にはご本人と一緒に買い物に行き、好みの服等を選んでいただいている。意思表示が困難な方の場合でも、お聞きしながら目を見て読み取るように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	何が食べたいかを伺い、季節の食材を活かして3食手作りしている。ご利用者様個々でのできる事を見極めて一緒に行っている。お誕生日はその方のお好きな物でのお祝い膳にするなど、行事食を大切にしている。	全介助の方と一部介助の方が若干名でその他の方は自力摂取できている。メニューはその日に材料を見て利用者にも相談しながら決めている。3食手作りで、近所の農家の方から頂く季節の野菜も食卓に並び、区長から頂いた栗で栗ご飯を炊き、ホームの畑からの収穫もある。利用者もできる範囲でお手伝いを積極的に行っている。秋には包丁を使い干し柿づくりの予定があり、外食にも頻繁に出かけ喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひと月の体重の増減、時には主治医に指示を仰いで、その方の現状に即した支援に努めている。栄養士は居ないが「食事・栄養・脱水予防等」学習会を行い、変化が生じた場合は食生活全体を総合的に見直し改善するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎朝・毎食後、個々に応じた口腔ケアをしている。歯ブラシ・舌ブラシ・口腔スポンジ等、必要時は個々に提供し、口腔内の状態によっては歯科医に繋げている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの尿量・習慣や表情・様子等を把握して声かけをしている。排せつ委員を中心に、排せつケア用品の調整やコストダウンを意識して、ご本人の負担軽減に向けて自立支援を行っている。	自立の方は三分の一弱で布パンツを使用している方もおり、全介助が数名で、その他は見守りと一部介助である。排泄表を参考にしているが、本人の訴えに合わせトイレで排泄できるよう細かく対応している。排泄委員を中心にケア用品のコスト削減を意識し購入方法も検討し、自立に向けた支援を行っている。各ユニットには3ヶ所の広いトイレがあり、わかり易く表示されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排せつパターンを見極め、その方の状況に応じた支援をしている。乳製品・繊維質の食べ物の提供や水分量の調整、又は運動等の対応をしているが、ほとんどの方が排便調整薬を内服している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日・時間帯は職員側で決めてしまっているのが現状である。但し、無理強いをすることはせず希望されない場合は、時間帯や曜日を変えて勧めている。	全介助の方が三分の一弱でその他の方は一部介助、見守りが必要となっている。週2回、ユニット毎に曜日、時間はほぼ決まっているが利用者の状態に応じて無理強いはせず個別対応もしている。ゆず湯など季節のお風呂にも入っている。年1回、ホームワックス清掃日には全員でスワ湖ハイツに出かけ、入浴、足湯を楽しんでいるという。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調不調時は無理せず休んでいただいている。眠れない時は、一人ひとりの状況を総合的に捉えて原因を探り、その方にとっての安らぎを見つける支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の内容書は個人ファイルで常に把握できるようになっており、変更時は「薬一覧表」及び体調について詳細に記録に残し情報共有している。又、医療側とは常に連絡・相談を密に取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味、得意な事等を把握し、日常生活の中で発揮していただくように支援している。好みのおやつについては冷蔵庫に個別保管してあり、食べたい時にお渡ししている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日という訳にはいかないが、個々の意向に沿った外出支援を常に心がけている。ご本人とご家族の希望でお出かけをされている方はいるが、職員とご家族又は地域の方々と協力しての外出支援には至っていない。今後ご希望があれば積極的に支援していきたい。	利用者の希望に沿い散歩、買い物、ドライブに出掛けている。全員の麦わら帽子の用意もある。年間行事表がありお花見、いちご狩り、ぶどう狩り、紅葉狩りなどに積極的に出掛け、家族の協力も得て支援している。外出時の利用者の表情はホームでは見られないものであり、外食会では好物のメニューを頼みお腹いっぱい、楽しい時間を過ごしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	居室にての個人保管はトラブル回避の為お断りしているが、金庫にてお預かりしている方はおり、外出の際はご自分のお財布を持ち買い物をされている。又、ご利用者全員のお小遣いをご家族より預かっているので、個人で買い物時は職員が同行して買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方には充電が切れないよ気配りをし、ご家族からの電話はご本人につないでいる。又、手紙のやりとりができるようにも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用生活空間は居心地よく過ごしていただくようにソファーを置くなど環境を整えている。季節の花を飾り、落ち着けるような音楽を流すなど工夫している。	玄関内脇には花の飾られた洗面台があり、手洗い、うがいができるようになっている。廊下、食堂兼ホールは天井が高く開放的で日当たりも良い。食事時はBGMが流れ落ち着いた雰囲気の中で食事を摂っていた。大きなソファーも置かれ、そこでおしゃべりをしゆっくりと過ごされている。眺めが大変良い中庭には畑があり、ウッドデッキも広く日光浴をしたり行事が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人掛け、二人掛けのソファー等、その時の個々の状況に合わせて過ごしていただいている。気の合った方同士一緒に座ったり、お互いのお部屋に行き来をしているが、更なる居場所作りの工夫は続けていきたい。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の使い慣れた家具や写真など、ご本人・ご家族の意向をふまえて置いている。半面、物があるが故に混乱や転倒のリスクの高まる方もいるが、すべてのご利用者が居心地よく過ごしていただけるように模索・工夫している。	居室のドアは硝子の障子で、中に入ると、窓にも床より天井までの大きな障子が使われ明るく広々として落ち着ける居室となっている。使い慣れた家具やハンガーラックが置かれ、家族写真や職員から贈られた誕生祝の写真入り色紙、手芸作品、書道作品などが飾られ居心地よく、清掃も行き届いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示を明確にしたり、歯ブラシ類などは個々で自由に使用しやすいようにしている。又、台所・くつろぐ場所・ベランダ等をしっかりと区切ることで、生活のメリハリをつけている。廊下には手すりがあり、両棟間を安全且つ自由に行き来することができる。		